

議会だより

2017.10.30

(平成29年)

発行：福島県西会津町議会

編集：議会広報特別委員会

にしあいづ No.139



■ 9月定例会報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2～7

○決算を問う 全会計を認定するも慎重な執行を求め決議

全会計の歳出総額は104億98万円（2～4 ページ）

○地方創生拠点施設の工事請負契約の締結を可決

菌床きのこ生産倍増と雇用創出を目指す（5 ページ）

○問題浮上で小学校プール建設の進め方を町と協議（7 ページ）

■ ここが聞きたい！ 一般質問 10人が登壇・・・・・・・・・・ 8～18

■ 農業の明るい未来に向けて若手農家と意見交換・・・・・・・・ 19

■ 議会報告会で出た要望を中心に常任委員会が調査・・・・・・・・ 20～21

■ この人にインタビュー・議会の動き・・・・・・・・・・・・ 22

往時の宿場を新たなにぎわいの場に (にぎわいまつり)

平成28年度決算を認定

認定こども園整備、町道野沢柴崎線改良、地方創生、役場新庁舎改修などの大型事業で

全会計の歳出総額は 104億98万円

(前年度比9億8,357万円増)

平成28年度決算のポイント

- 一般会計、各特別会計、水道事業会計を合わせた歳入総額は107億5,162万円（前年度比9.5%増）、歳出総額104億98万円（前年度比10.4%増）となり、全会計が黒字決算となった。
- 平成27年度からの繰越事業、補正予算（地方創生採択事業、役場新庁舎改修工事）などで、歳出総額は当初予算を8億8,028万円上回る大型決算となった。
- 財政調整基金から7億3,768万円を繰り入れる一方、前年度繰越金などで生じた余剰財源6億9,550万円を基金に積み立て、実質取崩額は4,218万円であった。

監査意見

財政健全化と町民福祉の向上に向けて引き続き努力を

決算審査に付された書類は適正に作成されており、数値に誤りはなく、予算の執行もおおむね適正と認めました。

税等徴収対策本部会議で未納対策に力を入れて、収入未済額は平成24年度に1億円を下回ってから毎年減少しており、不納欠損額も減少していることは評価できます。

特別会計では、未分譲となっている工業団地について、まち・ひと・しごと創生総合戦略に対応した対策が必要と思われます。水道事業では、今年度から老朽管の更新事業に着手しており、計画的に進捗するよう望みます。

一般会計歳入歳出決算に関する決議

数字に見えない慎重な行政執行を求める

清野佐一議員、多賀剛議員の2名から、ハワイへの西会津産米販路開拓事業の一連の経過を踏まえ、緊張感を持って協働のまちづくりを進めるよう求める決議案が提出され、全員賛成で可決しました。

ハワイへの販路開拓を巡っては、輸入規制という販路開拓の大前提に重大な障壁があったにもかかわらず、議会への説明もなく、「協働の町づくり」を進めるうえでも十分に注意され、緊張感をもって行政執行にあたるよう強く要望するものです。

町から提出された議案は、平成28年度決算の認定、一般会計及び特別会計補正予算、財産の取得、工事請負契約の締結など30件で、すべての議案を原案のとおり可決しました。
一般質問では、議員10人が登壇し、町の考えや対応を問いただしました。

会 計 名	決 算 額		差し引き	決算の認定採決の結果		
	歳入 (収入)	歳出 (支出)				
一 般 会 計	76億7,359万円	74億5,861万円	2億1,498万円	認定		
特 別 会 計	工業団地造成事業	2万円	0万円	2万円	〃	
	住宅団地造成事業	1,743万円	798万円	945万円	〃	
	下水道施設事業	1億6,876万円	1億6,554万円	322万円	〃	
	農業集落排水処理事業	1億1,274万円	1億926万円	348万円	〃	
	個別排水処理事業	5,140万円	5,035万円	105万円	〃	
	後期高齢者医療	9,455万円	9,447万円	8万円	〃	
	国民健康保険	事業勘定	10億1,124万円	9億8,459万円	2,665万円	〃
		診療施設勘定	2億7,877万円	2億5,428万円	2,449万円	
	介護保険	11億2,992万円	10億7,609万円	5,383万円	〃	
簡易水道等事業	6,788万円	6,491万円	297万円	〃		
合 計	106億630万円	102億6,608万円	3億4,022万円			
本町財産区特別会計	37万円	5万円	32万円	認定		
企 業 会 計 名	決 算 額		差し引き	決算の認定採決の結果		
	総収益	総費用				
水道事業 (収益的収支)	1億4,495万円	1億3,485万円	1,010万円	認定可決		
全 会 計 の 総 額	107億5,162万円	104億98万円	3億5,064万円			

平成28年度の主な事業



町道野沢柴崎線改良事業 2億1,037万円



認定子ども園整備事業 7億3,468万円
(外構工事・備品等を含む)



さゆり公園施設改修工事 8,297万円
(防球ネット、屋内・屋外プールろ過装置等)



役場新庁舎改修等工事 2億6,661万円
横町館跡発掘調査事業 2,251万円

決算を問う！議員の目

総括質疑

多賀剛議員

①事業の評価はできているか。

総務課長

担当課で評価を行い、副町長の確認を経て、今後の方針を立てている。

②不納欠損が大幅に減つた要因は。

町民税務課長

リーマンショックの影響から抜けたことが大きいですが、徴収努力もある。

③財政調整基金に対する町長の考えは。

町長

貯めるのが目的ではないと考える。地方創生で様々な取り組みを行っており、必要な事業には財政調整基金を取り崩しても取り組みたい。

町民バス

三留満議員

町民バスの利用状況は。

町民税務課長

利用者の減は人口減による影響と考える。野沢・坂下線は西会津高校の通学者数が減っていることが要因と考える。

ケーブルテレビ

多賀剛議員

ダビングサービスなどの手数料は受託者の収入とすべきでは。

企画情報課長

将来的にどうするのかは検討していきたい。

インターネット事業

秦貞継議員

民間と比べてサービスの環境の差はあるか。今後のサービス向上に対する考えは。

企画情報課長

家庭での環境は民間事業者と同等の環境である。動画の高速送受信対応などは、町民ニーズと費用対効果を考えながら対応していきたい。

後継者対策（婚活）

秦貞継議員

事業の検証は。

商工観光課長

専門業者を選定して3回の婚活イベントを行い9組がカップルとなった。

臨時福祉給付金

多賀剛議員

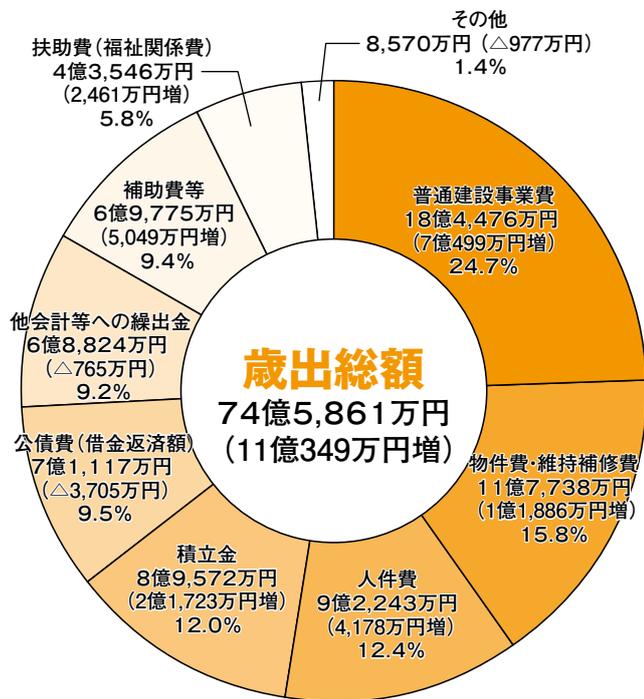
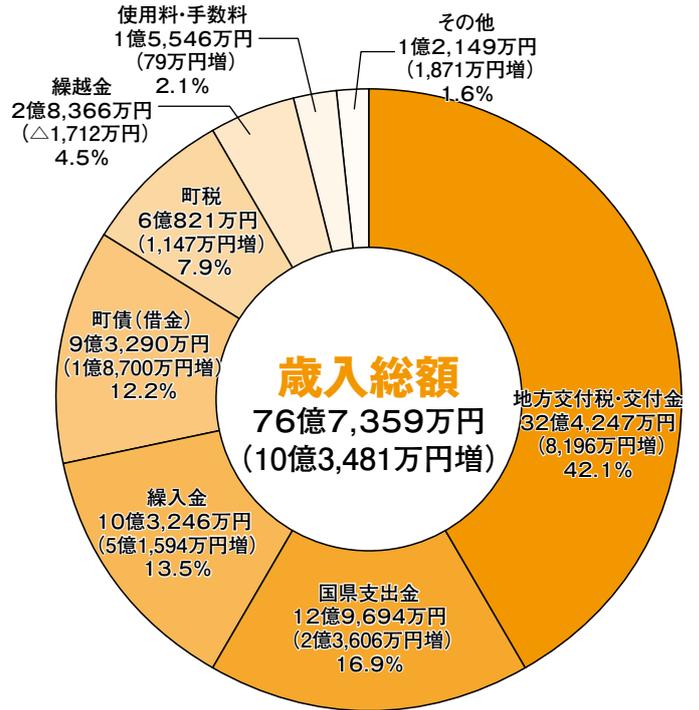
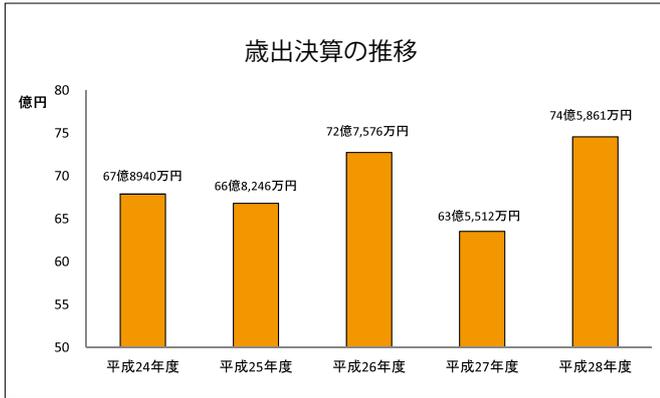
対象者全員に給付できないか。

健康福祉課長

対象者全員に通知している。締め切り後も提出のない方には声掛け働きかけを行うが、すべての人に支給できるわけではない。

一般会計歳入歳出決算の状況

※（ ）内は前年度との増減、%は総額に占める割合

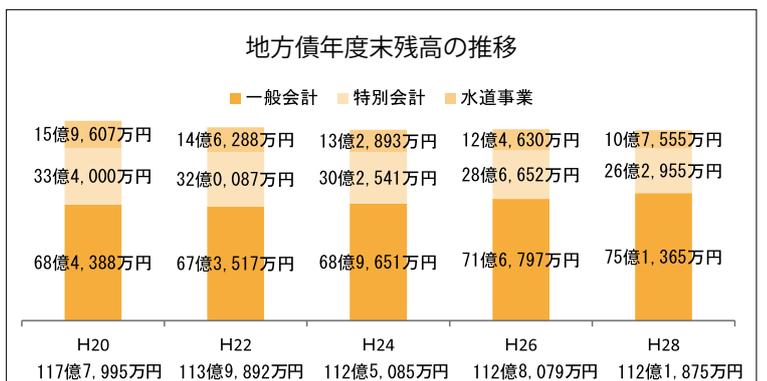
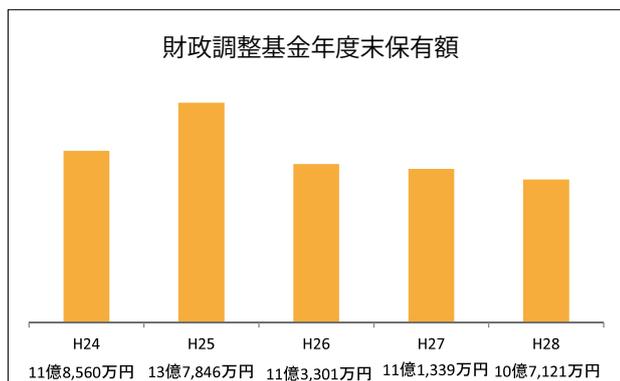


財政指標

実質赤字比率	なし (15%未満)
連結赤字比率	なし (20%未満)
実質公債費比率	11.2% (25%未満)
将来負担比率	89.1% (350%未満)
資金不足比率	なし (20%未満)

※（ ）内であれば財政健全化と判断される

地方交付税の額	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
普通交付税	26億34万円	25億9,408万円	25億5,598万円	26億3,327万円	26億1,900万円
特別交付税	4億2,279万円	4億2,924万円	5億813万円	2億9,197万円	4億1,008万円
合計	30億4,313万円	30億2,332万円	30億6,411万円	29億2,524万円	30億2,908万円
前年度との比較	1,711万円	△1,981万円	4,079万円	△1億3,887万円	1億384万円



補正予算

一般会計ほか7特別会計

3億4476万4千円

を増額

1億2152万4千円を
財政調整基金へ

一般会計は繰越金の確定、普通交付税の決定、

会津13市町村で取組む森

林資源を活用した新産業

づくり事業、道路及び橋

梁修繕、7月に発生した

豪雨による農地等の災害

復旧など、特別会計は、

繰越金の確定が主な内容

です。

福島ホープス杯野球

大会開催に30万円を

補助

多賀剛議員

大会の規模は。関連し

てロータスイン温泉施設

の改修時期は。

生涯学習課長

さゆり公園と西会津高

校を会場に県外を含む少

年野球6チームで行う予

定。

商工観光課長

12月から3月の間で検

討している。

主な質疑

議会報告会で要望の

あった藤棚に屋根を

設置する予算を計上

多賀剛議員

さゆり公園の修繕箇所

は。

商工観光課長

屋外トイレの浄化槽、

体育館誘導灯、藤棚への

屋根設置を予定している。

秦貞継議員

補助要件は。野球以外

の団体も該当するのか。

生涯学習課長

体育振興につながるこ

とが要件で、目的に沿え

ば野球以外でも該当する。

役場新庁舎改修等工事

床下修繕、防火対策工事の追加などで 1,563万円を増額



来年1月末完成、お盆前移転に向け工事が進んでいる。

現場で作業しないと
分からない部分

工事に着手したところ、

床下を補修する必要があ

るほか、防火対策を追加

したことによるもの。

工期は来年1月30日ま

まで変更ありません。

主な質疑

長谷川義雄議員

想定できたことでは。

建設水道課長

耐震改修の際にフロー

リングを敷いた。役場は

土足になるため、床を剥

がしたところ判明した。

菌床培養施設整備工事

地方創生の拠点化に向けて

1億2954万6千円の

工事請負契約の締結を可決

菌床きのこ生産倍増と雇用創出
を目指す

遊休施設を有効活用

西林にある旧葉たばこ

育苗施設を菌床培養施設

に改修して活用するもの

で、国の地方創生拠点整

備交付金事業に採択され、

今年2月の臨時会で予算

を議決した繰越事業です。

建物以外にバイオマス

ポイラー設置などで

2億1287万6千円の

予算となっています。

菌床きのこ生産規模

拡大に期待

これまでは生産者が自

らのハウスで培養管理を

行ってきたが、今回整備

する施設を利用すること

で規模拡大が期待されて

います。

雇用創出にも期待

施設運営のための雇用

のほか、培養と発生を分

けることで、新規参入者

の増加が期待されます。



議員提出条例

雪室貯蔵施設条例の一部を改正する条例は否決

先の6月議会定例会で三留正義議員、荒海清隆議員の2名から提出された西会津町雪室貯蔵条例の一部を改正する条例について、付託された経済常任委員会では町の雪室施設の現状と近隣の施設の現地調査を行うなどして審査を行いました。

その結果、否決と決定し、本定例会に審査報告しました。

なお、報告のなかで、施設の適正管理と利用促進に向けた取組みを求める意見を出しました。経済常任委員会の決定を受けて議案を採決し、賛成少数で否決となりました。

【採決結果】 否決（賛成2 反対11）

三留満	薄	秦	小柴	長谷川	猪俣	伊藤	渡部	三留正	多賀	青木	荒海	清野	武藤
×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	○	×	—

○は賛成、×は反対。武藤議員は議長のため採決に加わっていません。



町の雪室の現況を調査



喜多方市山都町の雪室を視察

提出理由

利用者保護と適正な維持管理を求める

雪室貯蔵施設の空調に不具合があり、利用者の利益を損なっているにも関わらず、規定どおりの利用料を課すのは不相当である。

このため、施設設備に瑕疵がある場合を減免規定に加えて、利用者の利益保護と適正な維持管理を図る必要がある。

審査報告

現行の規定で運用が可能

現行条例のなかに町長の裁量権で減免できる規定があり、改正の必要性は認められない。

利用促進に向けて改善を求める

町の雪室貯蔵施設は有効に活用されているとは言いがたく、利用者からも湿度対策を求める声があることから改善に向けた取組みが必要である。

条例改正

個人情報保護条例及び情報公開条例

大切な個人情報を守る

根拠法令の改正に合わせて条例を改正するもので、個人情報保護条例では、マイナンバーのほか指紋などの身体的特徴を加え、定義が明確化されました。

さらに、人種、信条、社会的身分、病歴などで不当な差別や偏見が生じないよう、要配慮情報として新たに定義に加わりました。

情報公開条例では、個人情報保護条例の改正内容を踏まえて、公開しないことができる情報の定義が明確化されました。



財産の取得

医療機械、消防ポンプ
自動車を購入するもので、
すべて可決しました。

多賀剛議員

医療機器の耐用年数は、

健康福祉課長

システムは4年、検査

装置は6年となっている。
使用状況にもよる。

清野佐一議員

消防ポンプ自動車に新
しく取り入れる装備など
は。

町民税務課長

他の分団に新しく配備

してきたものと同じ。

町特別功労表彰者の 決定に同意

町の発展に功労された
次の方を町特別功労者と
して表彰することに同意
しました。

五十嵐幸一さん(5町内)

消防団活動で町民の安

全・安心に功労

伊藤豊さん(1町内)

伝統民芸品の保護・技

術継承で功労

請願・陳情の審査

■「全国森林環境税の創
設に関する意見書採択」
に関する陳情

陳情者 全国森林環境税

創設促進議員連盟

会長 板垣一徳

【結果】採択

提出した意見書

■「全国森林環境税」の
創設に関する意見書

森林整備に必要な財源

とするための税の創設を

国に求めるもの。

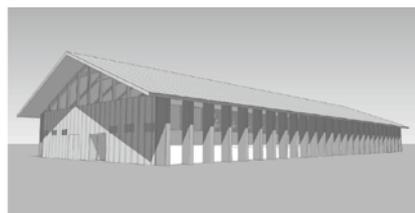
【結果】採択

【取得する財産及び取得価格】

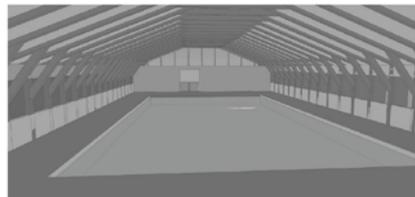
- 臨床検査システム 一式 2,862万円
血液検査や尿検査などの検査数値をデータ管理するシステムで、老朽化により更新するもの。
- 医用画像情報システム 一式 2,214万円
レントゲンなどの画像をデジタル処理するシステムで、老朽化により更新するもの。
- 生化学自動分析装置 一式 2,106万円
血液や尿の各種成分を測定する機械で、老朽化により更新するもの。
- 内視鏡検査装置 一式 1,296万円
老朽化により更新するもので、新たに鼻から入れるスコープを導入して患者の負担軽減を図る。
- 消防ポンプ自動車 1台 1,998万円
老朽化による更新で、第3分団上野尻班に配備する。

小学校プール建設の進め方を町と協議

9月8日の全員協議会で、町から西会津小学校にプールを整備するうえでの課題の説明と屋根なしプールに変更する提案がありました。
その後、9月15日に再度の協議を行い、今後の進め方を確認しました。
(15ページに関連)



南西側立面イメージ



高学年プール側から付属諸室をみる

問 小学校にプールをつくら
ないということですか。

答 プールをつくる方針に
変わりありません。どの
ようなプールが望ましい
か町で再検討することに
なりました。

①これまでの経過

町は基本設計でランチルーム隣に屋根付きプールを設置することとし、議会はプール整備に必要な予算を可決した。

②浮上した問題

実施設計の段階で、雪処理の問題、資材費の高騰、定期的なメンテナンスなどの課題が浮上した。

③町からの提案

町から屋根付き、屋根なしを比較検討した結果、来年夏から使えるよう、屋根なしの標準的なプールとする提案を受ける。

④議会の意見

町は雪処理やメンテナンスを不安視する質問に大丈夫だと答えている。
理由があって屋根付きにしたのではないか。

⑤協議の結果

屋根なしプールにするという提案を白紙にして、屋根付き、屋根なし、設置場所を含め、問題解決に向けた検討を進めることとする。

町政を問う

ここが聞きたい 10名が登壇



- ・三留 満議員
- ・秦 貞継議員
- ・薄 幸一議員
- ・猪俣常三議員
- ・小柴 敬議員
- (9月12日)
- ・渡部 憲議員
- ・伊藤一男議員
- ・長谷川義雄議員
- ・多賀 剛議員
- ・清野佐一議員

一般質問は9月11日と12日の二日間で行い、議員10名が登壇して、新しく就任した薄町長が進める今後の町政運営の方向性などを中心に問いました。

質問順序

(9月11日)

一般質問とは

一般質問とは、議員が町の事務の執行状況や将来の方向性について報告や説明を求め、町民のための適切な行政運営が進められているかをチェックするものです。

事前の通告に基づき質問

質問者は、議長の許可を得て事前に執行者に通告した内容に沿って質問することができます。

1時間以内なら何度も質問可能

論点及び争点を明確にし、議論が深まるよう一問一答方式を採用しており、答弁を含めて1時間の時間内であれば何回でも質問することができます。

○猪俣常三議員 (9ページ)

- ①新規就農者に一貫した支援を
- ②町道野沢柴崎線に防風柵の設置を
- ③地域で利用できる施設で福祉向上を
→介護保険事業計画のなかで検討

○多賀剛議員 (10ページ)

- ①町民の負託にどう応えるか

○三留満議員 (11ページ)

- ①農林業の危機的状況の打開策は

○清野佐一議員 (12ページ)

- ①町政運営の基本姿勢は

○薄幸一議員 (13ページ)

- ①子育て、老人福祉、人口減少への対応は
- ②道路の安全性を確保できているか

○渡部憲議員 (14ページ)

- ①保育料無料化などの見通しは
- ②国民年金額の範囲内で入所できる施設とは
- ③役場庁舎移転への考えは
→来年度の早期移転に向け作業中

○秦貞継議員 (15ページ)

- ①ビオトープの水源は確保できたか
- ②小学校プールの進捗状況は
- ③町の目指す教育は
→知・徳・体の調和

○長谷川義雄議員 (16ページ)

- ①町民の健康増進に向けた取組みは
- ②制度移行による国保税の影響は
- ③障がい者福祉計画への対応は
→平成30年2月を目途に策定

○伊藤一男議員 (17ページ)

- ①町政運営の考え方と見通しは

○小柴敬議員 (18ページ)

- ①今後の道路整備の進め方は
- ②雪処理支援隊の効率的運用を
- ③雪対策基本計画の進行管理は
→委員会を組織して進行管理

※掲載ページは抽選による。

※掲載記事は2項目まで。

(→は掲載のない質問の主な答弁)

新規就農

問 一貫した支援が必要では

答 関係機関と連携しながら支援

問 新規就農者が安心して定着できるよう、就農の相談から、栽培研修、独立後の営農指導までの一貫した支援体制が必要と考えるが、町の支援は十分といえるか。

農林振興課長

新規就農者の確保・支援策として、国の給付金制度と町単独事業により資金面の支援をしている。その際、受給者と面談を行うとともに、県喜多方農業普及所、JAなどと連携した毎月一回程度

の打ち合わせの中で、個々の計画に沿った支援をしている。

栽培技術面では町栽培指導専門員が主に作物管理のアドバイスを行って

させながら、就農に関する相談から独立した後の営農指導まで、きめ細かに支援していく。

問 5年後、10年後も町の農業を維持していくために、早めの対策が必要と考えるが。

農林振興課長

10年間を期間とする町総合計画に基づき、前期と後期それぞれ5年間の基本計画を策定し、農地保全、担い手確保、パイプハウス整備、有害鳥獣対策などの施策を実施している。

また、まち・ひと・しごと創生総合戦略のなかでも、町の農業資源を活かした仕事の創出と、法人化等による担い手の

確保を目標に掲げている。これらの計画の進捗状況を踏まえ、今後も農業振興策のための施策を推進する。

問 なぎの平に防風柵設置を

答 風向きや雪の状況をみて検討

問 町道野沢柴崎線の通称なぎの平区間は、吹きさらしでハンドルが取られたり、吹雪で視界が遮られたりする危険がある。安全に通行できるように防風柵の設置など対策が必要と思われるが。

建設水道課長

なぎの平は風の強い場所、県道に設置されているが、県道とは方向が

違うため、風向きなどの調査が必要である。吹きだまりに対しては除雪で対応している。

防風柵の設置には多額の建設費を要するため、国の交付金を充てる必要があることから、風速や風向を調査し、必要性を含め検討する。



安全に通行できるよう対策を

交通安全



議員
猪俣常三

携を密にし、支援を充実

新規就農者が増加して、支援が十分に行き届かないようであれば体制強化を検討する。

問 町栽培指導専門員の増員や、新規就農者などを育成する組織を立ち上げる考えはないか。

農林振興課長

当面は関係機関との連携を密にし、支援を充実

問 町民の負託にどう応える

答 町民の声を聴き施策に反映



議員
多賀 剛

問 今回の町長選挙は三つ巴の大変厳しい選挙であったが、選挙戦を通して感じたことは。また、選挙結果をどう捉えるか。

町長

前回の選挙戦後から町内をくまなく歩き、町民の声に耳を傾けてきた。その中で、少子高齢化、老後の福祉、経済や雇用情勢、農業情勢、集落の維持、除雪といった様々な課題に対する町民の切実な思いを強く感じた。特に人口減少が進む中、このままでは町が大変なことになってしまおうとの思いを強くした。流れを変えて、元気で活気ある町にしてほしいという町民の負託に対し、課せられた使命と責任の重大さを痛感している。

問 町民の参画を促し、「町民が主役」のまちづくりを推進するためにはどのような仕組みづくりが必要と考えるか。

町長

まちづくり基本条例の基本である町民・議会・行政の三者の役割をそれぞれがしっかりと守ることが最も重要と考える。町民が主役のまちづくりには、もつと町民との距離を縮め、生の声を聞いて、様々な意見を施策に反映させていくことが必要であり、町民の皆さんが議論出来る体制の整備や機会を設けるとともに、次世代を担う若者や感性豊かな女性の視点からまちづくりに提言できるように場を設けることも検討する。

問 職員の意識改革とは具体的にどのようなことを指すのか。何を期待するか。

町長

役場は文字どおり町民の役に立つ場所でないといけないと考える。多様化する町民ニーズに対応した行政サービスを提供するためには、広い視野と高い観点から創意、工夫し、町民の視点で行動する職員の育成が必要と考える。

上から目線ではなく、町民よりも少し低い目線での態度、言動、行動に努めるとともに、各種の研修を通じた自己研鑽を図り、今まで以上の意識改革を期待している。また、できる限り職員との対話の機会を設け、風通しを良くして職員が思いきって仕事ができるような環境づくりに取り組んでいく。

問 後の町政運営にあたって何が重要と考えるか。

町長

町民・議会・行政が将来の目標に向かって一つになることが重要と考える。

広範囲にわたって町がよくなるための情報収集に努め、今まで培った人脈も活かしながら、みんなで力を合わせて活気あるまちづくりに取り組む。



積極的な町民参画で本物のまちづくりを

農業振興

問 危機的状況にどう対応する

答 頑張る農家をしっかりと育成する

町長

町内産米を全国に販売していくためには、はっきりした基準が必要と考えるので、具体的な可能性を検討する。

町内の多くの森林は伐採期を迎えているが、木材価格の低迷による森林所有者の関心低下により資源の有効活用が進んでいない。

問 町の農林業は危機的

状況で個人の力では限界にきているとの声がある。

この危機的状況を打開するためには公社を含む新しい組織やシステムの構築が必要と考える。

町はこれまで、公社の

設立については担い手の意見を聞きながら検討するとしてきたが、町長の考えは。

町長

農家を取り巻く環境はより厳しい状況にあり、その対策は喫緊の課題と

認識している。

公社の設立については選択肢の一つとして、町内各地区へのライスセンター整備構想と合わせて、農業関係各団体等と意見交換を進めながら検討していく。

その前段階として、今頑張っている法人や集落営農組織・若手農業者をしっかりと支援、育成し、その中で方向性を定める必要がある。

そのため、集落単位での農業機械の共同利用化や集落営農の組織化・法人化・認定農業者への農地集積等経営の規模拡大

により、効率的で合理的な生産体制を確立するこ

とが急務と考え、複数の集落等で話し合いを進めているところである。

問 米のブランド化を進めるために食味計を導入する考えは。

農林振興課長

食味計は機械本体が高額で、設置場所や維持管理の方法を検討する必要があるので、ライスセンター整備構想の中で検討していく。

問 米のブランド化や、

ふるさと納税を進めるためにも、消費者に理解してもらえる基準が求められる。そのためにも食味計は必要と思うが。

問 これまで進めてきた

森林資源を活用した菌床用オガ粉・ペレット等の生産施設整備計画について、今後の進め方は。

農林振興課長

まち・ひと・しごと創生総合戦略で、きのこの大規模産地化推進事業を進め、生しいたけの出荷量を5年間で倍増することを目標としている。

目標達成に向け、国の交付金事業で、森林資源の調査を行うとともに、町森林資源活用型産業化計画策定委員会を組織し、生産施設の整備に向けた検討を行い、基本的な整備方針を策定した。

今年度は、オガ粉生産施設の規模や整備時期等の具体的な検討を進めることとしている。



議員

三留 満



若手農家も町の将来を真剣に考えている



議員
清野佐一

問 力点を置くところは

答 人口減少に歯止めをかける

問 町長就任にあたり、今後の町政運営の基本姿勢について次の点を伺う。

① 前回の町長選挙から四年間暖めてきた町政への基本的な考えは。

町長

前回の選挙後から町内をくまなく歩き、町民の声に耳を傾け、その中で、少子高齢化や老後の福祉、経済や雇用情勢、集落維持など、町の現状と将来に焦燥感を覚え、解決のための方策として5つの基本政策を公約に掲げた。公約を実現させ、元気で活気ある町、安心して暮らせる町にしてほしいという町民の切実な願いに応えることが課せられた使命と認識している。

② 薄町政としてどこに力点を置くのか。

町長

最大の課題は人口減少に歯止めをかけること。そのため、長年培ってきた行政経験と人脈を最大限に活用し、まち・ひと・しごと創生総合戦略の実現を図り、将来に夢と希望の持てるまちづくりに全力で取り組む。

③ まちづくり基本条例の基本理念である協働のまちづくりをどのようにして進めるのか。

町長

町民の声を聴き意見を施策に反映させ、町民・議会・行政の三者による協働のまちづくりを推進していく。

④ 町長の仕事は外交が大切だと力説されているが、町民の声に耳を傾けることも大切と考える。外交と内政をどのように取組んでいくのか。

町長

町民が何を望んでいるかをはっきりしないと、外交の目的が見えなくなってしまう。

そのため、対話の機会をできるだけ設け、意見や要望を聴きながら町民の声を正確に把握し、それを外交に反映させることが大切と考える。

町民の声を聴くためには、気楽に町長室に来ていただける環境も必要であり、ケーブルテレビで町長日程をお知らせしている。

⑤ 全国に先駆けた先進的な取組みを学ぼうと、かつて年間250余りの視察があったが、現在はほとんどない。この状況をどう受け止めるか。

町長

他の自治体が目標を持って努力してきた結果と認識している。

時代の流れに沿った施策が町のカラーとなる。全国的に注目を集めるということは、町の情報が発信されることであり、町の活気に繋がることから、常に注目を集めるような特色あるまちづくりを進め、人口減少に歯止めをかけるためのカラーを鮮明にしていきたい。



ふたたび全国から注目されるまちへ



議員
薄 幸一

道路管理

問 安全性は確保できているか

答 財源を確保し計画的に修繕

問 町内の道路は幅員が狭く通行に危険な箇所も多くあることから、道路の維持管理に対する町の考えを伺う。

建設水道課長

町道の多くは昭和40年から50年代にかけて整備したもので、老朽化が進んでいるため、調査や点検の結果に基づき、財源を確保しながら計画的に改良や修繕を行い、適正な維持管理に努めている。

特に、橋梁やトンネル

は、法令で5年に1度の点検が義務付けられているため、現在、町が管理するすべての橋の点検を行っており、今後は点検結果に基づき修繕を進めることとしている。舗装については、路面状況の点検を実施して、点検結果と交通の状況を考慮し、修繕に力を入れることとしている。

問 国道や県道について

は、地域住民に計画や進捗状況などを知らされていないため、いつ対応してもらえるか不安を抱えている。

このことについて町はどのように対応するか。

建設水道課長

地域づくり懇談会など、機会あるごとに要望しており、特に地域から通報があった場合は、直ちに道路管理者である国や県に連絡して、早期の対応を要請している。



いつ復旧するか住民は不安を抱えている

問 人口減少が問題となるなか、安心して暮らしを町づくりに向けて、子育て支援や老人福祉にどのように取り組むのか。

健康福祉課長

子育て世代の経済的な

負担を軽減するために、保育料の無料化を来年度から実施できるように取り組んでいく。

経済的支援だけでなく、各種支援を充実させ、安心して子育てができる環境づくりを進めていく。

老人福祉では、サロンの拡充のほか、スポーツやボランティアといった社会参加の促進を図り、地域全体で高齢者を支え、元気で長生きできる環境づくりを進めていく。

問 人口減少によって集落機能の維持管理が困難な自治区が増加している。これに対する施策は。

企画情報課長

集落支援を担当する地域おこし協力隊員1名を配置し、集落支援員と連携して集落支援活動に取り組んでいる。

農道、水路の維持管理については、新たな仕組みづくりを検討する。

問 子育て支援策は

答 安心して子育てできる環境づくり

安心な暮らし

老後の安心

問 国民年金で入所できる施設とは



議員
渡部 憲

答 空き家を活用した施設を想定

問 老後のために安心して暮らせるまちづくりについて、国民年金の範囲内で入所できる施設とはどのようなものか。誰もが利用できるようになるのか。

町長

国民年金のみで暮らす世帯にとつては、介護が必要になったときの不安が大きいため、空き家や空き施設を利用した介護付きの共同住宅や小規模多機能型居宅介護施設などを想定している。前例のない取組みになるので、知恵を出し合い、国にも働きかけ、実現を目指す。利用にあたっては収入や世帯の状況によって基準を設ける必要がある。

問 特別養護老人ホーム、ショートステイ施設の増設についての見通しは。

町長

施設の増設については介護保険事業計画の中で町の実態を把握し、将来に向けて検討していく。

問 特別養護老人ホームを増設すれば町民負担はどのくらい増えるか。

健康福祉課長

20床増設すると仮定した場合、町の負担が年間1千万円程度、介護保険料が月額2百万程度の増加が見込まれる。

保育料無料化

問 実現の見通しは

答 来年度から実施する

問 次世代の人材を育成する施策として、保育料無料化、学校給食の無料化、小中学校の学力向上を掲げているが、どのようにして取組んでいくか。また見通しはどうか。

町長

保育料の無料化は平成30年度から実施する考えであり、一般会計のなかから財源を調整する。今後、財源確保の一つとして、ふるさと納税の活用を検討する。

問 保育料無料化に必要な金額は。

町長

一人目半額による軽減額が1200万円なので、無料化には2400万円が必要となる。

問 小中一貫教育をどのように考えているか。

町長

学校、保護者、地域の合意形成ができていないことが課題と考える。

学校給食の無料化についてはは任期中に実施できるように取組んでいく。学力向上については、教育委員会と教育政策の方向性を共有しながら実現に向けて努力していく。



こどもは町の宝



議員
秦 貞継

ビオトープ

問 生物が棲める環境になったか

答 水源の確保ができていない

問 西会津小学校に設置されているビオトープに

関して、これまでの問題点と今後の利活用について次の点を問う。

① ビオトープを設置しようとした当初の目的は、

学校教育課長

小学校を新築する際に、子どもたちが自然と触れ合う場・地域の憩いの場として利用することを目的に整備した。

② 現状はどうであるか。

学校教育課長

年間を通じて安定した水量が確保できていない。当初計画していた敷地内を流れる水路の流水は、夏の時期に水量が激減して生物が生息できる環境になっていない。

③ 年間を通して生物が生息できる環境を整え、

町ホームページで自然に囲まれた西会津の教育施設としてPRすべきと考えるが。

学校教育課長

できるだけ早く本来の設置目的である学習や憩いの場となり、そこで学ぶ児童の姿を学校のホームページで発信できるように、引き続き水源の確保や施設の改修なども視野に、調査・検討を進めていく。

問 小学校に整備することになっているプールについて、次の点を問う。

問 どこまで進んでいるか

答 問題浮上で計画を変更したい

① 現在の進捗状況は。

学校教育課長

基本設計の配置場所、工事費を基に実施設計の策定作業を進めている。

② 現段階で問題点や修正点は出ないか。

学校教育課長

屋根付きプールを設置する計画を進めてきたが、雪処理や建設資材の高騰といった問題が浮上し、年度内の完成が難しい状況であることから、来年の夏からプールが使えるよう、屋根のない標準的なプールに変更したい。

問 今回の問題について町はどう考えるか。

町長

進め方が甘く、お詫びしなければならぬ。様々な検討をした結果、やむを得ないと判断した。

この問題を整理するため、後日全員協議会を開催し、建設する方向性は堅持しながら、設置場所・屋根付き・屋根なしを含めて一度白紙に戻し、関係者を交え検討していくこととなりました。
【7ページに詳細】



プール建設予定地だった校舎裏



議員
長谷川義雄

健康増進

問 健康づくりへの取組みは

答 健康寿命の延伸を進める

問 厚生労働省から全国都道府県別の死亡率が発表され、福島県は男性が5番目、女性が2番目と高く、心筋梗塞の死亡率は全国一であったことから、次の点を伺う。

① 本町の心筋梗塞による死亡者数は。

健康福祉課

男性6名、女性2名の計8名であり、県と比べて男性は死亡率が高く、女性は低く、全体として高い傾向にある。

② 要因は据えているか。

健康福祉課

運動不足、不適切な食生活、過度の飲酒、喫煙などの不健康な生活習慣による、脂質異常症、肥満症、高血圧症、糖尿病などがあげられる。

③ 健康増進への更なる取組みは。

健康福祉課

平成27年に策定した西会津町健康増進計画の中で、減塩や禁煙、野菜の摂取や適度な運動の推進、健診の未受診者に対する受診勧奨などを進め、生活習慣病のリスクを減らすように指導すると共に、健康寿命の延伸を目標に健康づくりを進める。

国民健康保険

問 制度移行で負担はどうなる

答 影響は少ない見通し

問 来年度から国民健康保険の財政運営主体が市町村から都道府県に移行

② 町の一人あたり医療費水準は。

町長

することとなり、将来的に保険料を統一する方向で検討されていることから、次の点について伺う。

平成28年度速報値で一人あたり33万323円となっており、県内で低い方から5番目である。

③ 保険料を抑えるための健康づくりも重要と考えるが、町の取組みは。

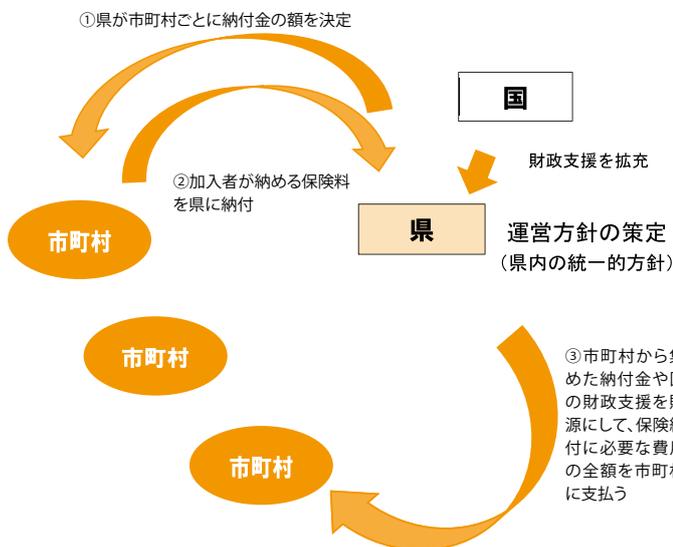
町長

現状を把握し、専門の先生に指導をお願いして取組んでいく考え。

① 制度移行後の保険料はどれくらいになるのか。

町長

試算では、一人あたり平均で10万2287円という金額が示され、今年度の減税財源投入後の税額と同程度である。しかし、今後行われる県と市町村の協議の結果が出ないと判断できないところがある。



平成30年4月から国民健康保険制度が変わります

問 内向きからの脱却とは

答 外交による情報の先取り

問 町内をくまなく歩き、まちづくりに取り組みます。

町民の声を聴き各種施策を公約に掲げ、見事激戦を制した町長には、人口減少問題をはじめとする諸課題に対し、どのような舵取りをするか、多くの町民が注視し、期待している。

町長

そこで、町政運営の基本的な取組み方として次の点を問う。

① これまでの内向きの町政運営から外に向かつての大胆な発想により、

まちづくりに取り組みと所信表明で述べているが、具体的な取組みは。

② 5つの基本政策について事業実施の用途は。

町長の仕事の中で最も重要なことは外交であると考えます。

町長

議員 伊藤一男

す。

町長

町長

事業内容によって今すぐできるもの、少し時間の必要なものがあるが、任期の中で結果を出すために最大限努力する。

③ 活気あるまちづくりとは、どのようなまちづくりを目指すのか。

町長

町全体が一つの目標に向かつて進む特色のあるまちづくりを目指す。

そのために、明確な目標を掲げ、国の情報を先取りして、町が輝いて賑わいが生まれるようなるまちづくりに取り組んでいく。

町長

今の町の状況は、全国に発信できる特色あるまちづくりがなされていないと思っている。

町長

その要因は、国の情報が直接入ってこなくなり、新たなまちづくりの目標が明確になっていないところにあると考える。

問 活気ある町には経済の活性化が欠かせないが、どのように取り組む考えか。

町長

公共土木事業が効果的と考える。

このほか、人の集まるイベントの開催、農林業の活性化などによって、地元にお金が回る仕組みをつくり、町を活気あるものにしていきたい。

町長

問 雇用確保と企業誘致の考え方は。

町長

企業誘致は難しい課題と認識している。誘致以外に起業も一つの選択肢であり、森林資源の活用が考えられる。

また、既存企業の支援にも力を入れていきたいと考えている。



活気あるまちづくりに注目

人材確保も重要な課題であり、町に生まれ育った人が地元に着し、地域に貢献できる人材を育成するためには、教育のなかで町の素晴らしさを教えることも大切なことである。



議員
小柴 敬

問 増員と機械化で効率化を目指せ

答 運用状況をみながら検討

雪処理支援隊

問 雪処理支援隊事業が始まって3年目を迎えるにあたり、より充実したものとするため、次の点を問う。

① 隊員を1名増員して6名とし、3名ずつ2班に分け、それぞれに小型除雪機を配備することで効率が上がリ、充実強化につながるかと考えるが。

② 昨年度の実績はどうであったか。

健康福祉課長
支援対象者は13人で、主に独居高齢者である。隊員5名の実働日数は12月から3月にかけて、37日間であった。

③ 今年度の隊員募集はいつ頃を予定しているか。

健康福祉課長
昨年同様、10月中に隊員募集を実施し、降雪前に、体制を整える。

問 雪処理に関するマニュアルやルール、相談窓口をまとめた冬のくらしガイドの作成はどの程度まで進んでいるか。

企画情報課長
役場の庁内検討組織である雪対策部会が中心となり、作成及び編成作業を進めているところであり、専門家によるアドバイスや雪対策基本計画推進委員会での意見を伺いながら降雪前までには町内全世帯へ配布する予定としている。

問 町道野沢柴崎線の完成はいつごろになるか。

建設水道課長
現在、橋立3号橋付近の路面を嵩上げする工事のため全面通行止めとしているが、10月上旬には片側交通とし、12月の早い時期の完了を予定している。

橋屋橋の架け替え工事を含め、福島県との連絡を密にして、今年度中の全線供用開始を目指し、工事を進めていく。

問 完成時に慶事を行う計画はあるか。

建設水道課長
完成後には、「橋渡り」等の慶事を予定している。

道路整備

問 今後の進め方は

答 修繕にも力を入れ安全確保

問 橋梁点検の進捗状況と今後の改修計画は。

建設水道課長
町が管理する166橋の点検を専門業者に委託し、今年度中に点検が完了するよう進めている。今後は国の交付金を活用し、緊急性の高いものから計画的に修繕を行い安全確保に努める。

問 経年劣化の著しい舗装の修繕と道路整備をどのように進めていくか。

建設水道課長
路面状況を調査し、今後、損傷度や交通状況をして計画的な修繕を進めることとしている。道路整備については実施計画に計上して、財源を確保しながら進める。



開通が待たれる野沢柴崎線

小中一貫教育調査特別委員会管外行政調査 施設一体型保小中一貫教育の導入 事例を調査

■ 実施日 平成 29 年 8 月 2 日 (水)
■ 調査先 新潟県湯沢町『湯沢学園』



成果と課題を明らかにしながら慎重に

一体型の施設環境を活かし、小中学校合同の体育祭や部活動、学校支援ボランティア活動、こども園の園児との交流など様々な形で連携が進められ、成果が見え始めているが、義務教育学校への移行にはメリットをしっかりと確認してからということで、まだ先のように

保護者からの小学校統合を求める要望を機会に保・小・中連携教育導入に向け着手

湯沢町は保護者の反発で小学校統合を断念した経過があり、少子化の進行や耐震化の問題から、保護者が統合を望む声が出てきたのを機会に保小中連携教育導入に向けて動き出し、教育、保育、建設の各分野を検討して方向性が出されました。

関係者が同じ目線で中学校に隣接する高校跡地を活用して一体型の施設を整備

整備構想の中で、中学校の隣に高校跡地があり、認定こども園と小学校を併設し、保小中が一体化した教育施設とするべきとの結論に至ると、議会も同じ方針を打ち出しており、地域・保護者・教育委員会・学校とも同じ目線で進められました。

地域の理解が不可欠

一貫教育の導入には、何よりも保護者と地域の理解が必要です。

そのためにも成功事例を参考にするだけでなく、町の地域性や町民の考えを大切に、慎重に検討することが望まれ、議会としても子どもの成長にとって何が大切かという視点で、引き続き調査検討が必要と考えます。

西会津町議会一般会議 JA会津よつば青年連盟北部地区 西会津支部と町の農業を語る

■ 実施日 平成 29 年 8 月 25 日 (金)
■ 場所 ロータスイン

安心して就農できる仕組みが必要

若手農家からは、自らの経験に基づいて、新たに農業を志す若者が定着できるよう研修中や独立して経営が安定するまで安心して取組める環境を求める声がありました。また、山間部の実情に詳しい農家から、後継者対策として、地域おこし協力隊を募集してほしいという提案がありました。

町の若手・中堅農家 14名と意見交換

「未来へつなぐ！西会津の農業を考える」をテーマに意見交換を実施しました。

5年先を見据えて対策を

町の農家の平均年齢は70歳を超え、5年内には激減するということを前提に対策が必要という厳しい現状が語られました。

販路開拓とブランド化のための支援を

中堅農家からは、販路開拓やブランド化に向けて町の旗印を掲げて支援してもらえると、生産者も頑張りがいがあるし、規模を拡大して農地を守っていくという気にもなれるといった意欲的な意見が出されるなど、時間を延長して活発に意見を交わしました。



上野博章支部長に感想を伺いました。

農業は個人の所得としてだけでなく、山・水などの住環境の保全や再循環など多面的な機能を担っています。町の農業を絶やすことのないよう、今後も認識の共有化や課題解決に向けて意見交換していきたいと思っております。機会をいただきありがとうございます。

一般会議とは？
町内で活動する団体等と議員が意見交換する場で、出された意見や要望を政策提言や一般質問を通して町に提言し、よりよいまちづくりにつなげることが目的です。
会合や行事に合わせた開催もできますので、お気軽に申し込みください。

総務常任委員会は、所

管する事務・事業のうち、町民と議会との懇談会（議会報告会）で出された要望等の状況調査と、本年4月に開園した西会津町こゆりこども園の運営状況、町内にある指定文化財の保存状況等について、実状を把握するとともに課題と対応策等を検討するため、次のとおり視察・調査を行った。

役場窓口対応

笑顔で爽やかな対応で印象は変わる

昼休み中の窓口対応については、労働時間等の制約があつて、休息時間中の拘束はできないことは理解できるが、笑顔で爽やかな対応は、それだけでも与える印象は相当変わってくることから、今以上に町民に寄り添った窓口対応が望まれる。

空き家対策

危険家屋には適切かつ臨機応変な対処を

平成26年度に行った調査では、745棟の空き家が存在し、現在はさらに増えていると思われる。倒壊して事故につながる危険な家屋に對しては、適切かつ臨機応変な対処が求められる。

定の情報は視聴できる仕組みになっている。

デマンドバス

当日予約は配車の組み直しが発生

当日予約も料金を前日までの予約と統一してほしいとの要望について、当日予約は配車計画を組み直し、予約者に時間変更の連絡を入れる必要も出てくるため、料金設定が異なる。

直営ならではの利便性向上を

新たな停留所の設置や無予約での途中乗車に関する要望について、法令や運行上の制約から難しいところがある。費用対効果と利便性の向上を両立させることは難しいが、町民の足を確保するために運行できるのは町直営だからこそそのサービスあり、今後も町民の意向に沿った利便性の向上が望

ケーブルテレビ

データ放送を有効に活用してサービスの向上を

過去のお知らせ放送が見たいとの要望について、54項目のデータを放送でき、内容を登録すれば一

まれる。

こゆりこども園

妊娠期から子育て期まで切れ目なくワンストップで支援

こゆりこども園は、町の子育て支援の拠点として①認定こども園、②放課後児童クラブ、③子育て支援センターを備え、妊娠期から子育て期まで子育てに関する支援を切れ目なくワンストップで行っている。

園児の送迎に課題

町全域を対象とするため、園児の送迎に最長で45分かかっており、保護者の要望を聞きながら効果的な対応をとるとのことである。

よりよい保育環境の構築に向けて話し合いの機会を

月一回の職員会議を開いているものの、福祉会町、現場の職員など、関係者が集まったの会議は現在（調査時点）まで開かれておらず、よりよい保育環境の構築に向けて、関係者間の連絡、話し合いの場を持つことが望ましい。

指定文化財

認知度向上と今後の維持管理が課題

町内には数多くの指定文化財が点在しているが、町内外を問わずあまり知られていないのが現状である。

また、文化財の維持管理には集落等の相当の労力が費やされており、人口減少が進む中、今後は困難な状況も出てくると予想される。

観光案内ガイドの活躍に期待

文化財の認知度を高めるために、現在要請中の観光案内ガイドの活躍が期待される。

また、現在作成中の歴史文化基本構想の中で、今後の保存伝承方法を合わせて観光資源としても有効な活用計画を検討すべきと考える。



開放的なこゆりこども園



個人が保管する貴重な文化財を調査

経済常任委員会は、所

管する事務・事業のうち、**町民と議会との懇談会（議会報告会）**で出された要望等の状況調査として、**さゆり公園の管理状況、西会津国際芸術村の運営、集落環境維持と地域活性化、集落内の町道及び河川の現況、除雪体制について、実状を把握するとともに課題と対応策等を検討するため、次**のとおり現地を調査した。

さゆり公園

日陰のできない藤棚の対策を望む

藤棚に屋根を設置してほしいといった要望に対して、5棟あるうちの2棟で藤の蔓が枯れて日陰にならない状況で、何らかの対策が必要である。（補正予算で修繕費が計上されました。）



棚に藤がまったく張っていない



木の根で外周路が盛り上がる

景観に配慮しながら外周路の安全確保を

野球場及び多目的広場の外周路は成長した樹木の根によって所々が盛り上がり、ランニングの際に転倒する危険があり、景観と利用者の安全性を考慮した良好な環境の維持が望まれる。

西会津国際芸術村

道案内表示の充実が望まれる

ポイントとなる場所に看板が設置されているが、簡易なもので見過ごすことも予想され、しっかりとした分かりやすい表示板の設置が望まれる。

グラウンドへの車の乗り入れ管理徹底を

芸術村への進入路部分が舗装され、大幅に改善しているが、今後は乗り入れ可能区域を明確に表示して、使用後の地ならしを徹底するなどの配慮が望まれる。

町内からの来館者も増加

町内の団体が主催する展示やワークショップを通して町内の来館者が増えており、町民の意識が浸透しているのを確認した。

より親しまれる施設となるよう、今後の取組み



芸術村は町民の利用も増えている

に期待する。

集落環境維持

不足する労力確保に支援の手を

過疎・高齢化が進み、集落環境を維持する人手が不足するなか、機械化による省力化が求められている。

町も検討してはいるが、現地の状況によって出来る場所とできない場所があり、検討が必要とのことであった。

町道管理

自治区の合意形成と町の丁寧な対応を

議会報告会で要望のあった、自治区内の道路や河川などの危険箇所を調査した。

程度の大小はあるが、以前から要望をしているのに進まないというところは共通しており、自治区内で合意を形成して、自治区長から町に要望するという流れの確立が必要と思われる。

また、陳情の方法などを親切丁寧に説明するといった町の対応も必要と考える。

除雪体制

直営・委託で出勤状況はほぼ同じ

直営と委託で出勤に差があるとの声について、昨年度の出動実績をみると大きな違いはなかった。しかし、直営の方が除

雪車1台あたりの除雪延長が長く、公共施設内の除雪を直営で行っているため、結果として差がついているように見受けられるものと思われる。

出動基準改善で対応が迅速に

昨年度から出動基準を「積雪15cmに達したとき」から、「15cmを超えるところは共通しており、自治区内で合意を形成して、自治区長から町に要望する」という流れの確立が必要と思われる。

道路管理の違いで差が出ないよう望む

今後も通勤通学前や不規則な降雪への対応や、町縦貫道のように町道と県道が入り混じるような路線において、管理の違いで除雪に極端な差が生じないよう、万全の除雪体制が維持されることを望む。

この人にインタビュー

このコーナーでは、各方面で活躍されている町民の方々をインタビューを通して紹介します。

今回は、野沢のまつり伝承に活躍されている四五六会（すごろくかい）会長の加藤豊彦さん（6町内）です。



まつりの賑わいを大切にする加藤さん

プロフィール

所：野沢原町
 年齢：68歳
 趣味：ゴルフ・スキー
 漬物づくり

難しさを改めて知り、その頃が一番大変でした。

— 今後の課題は。

やはり「ひと」の問題ですね。山車の乗組員や神輿の担ぎ手が少なくなってきたいます。何とか維持していきたいです。

— 会長としての苦労話などを聞かせてください。

山車と神輿にはそれぞれ責任者を置きますが、仕事などの都合で適任の責任者を擁立できなくて、山車と神輿両方と全体を一人で統括した時期があり、大勢の人をまとめる

— 今年は第二地区の祭礼委員長もされていますが山車の修繕等はどういうふうに行われましたか。

平成27年度の祭礼委員会の方々をはじめ野沢自治区長連絡協議会の方々の尽力により、今年度、自治総合センターのコミュニティ育成事業（宝

くじ事業）に該当し、山車の前輪付近やブレーキ部、そして明治から受け継ぐ太鼓の革の張替えなどの修繕ができました。関係各位にはこの場を借りて御礼申し上げます。

— 議会や町に望むことは。「賑わい」の創出です。第一次・第二次産業に充実した政策をお願いしたいです。それが全体の「賑わい」に結びつくこと信じています。

— ご協力ありがとうございました。今後もお活躍を期待しています。

議会の動き

全国町村議会広報研修会に参加

議会広報特別委員会では、9月28日に東京都で行われた全国町村議会広報研修会に参加してきました。

「伝える広報」から「伝わる広報」へ

文章の書き方では、「結論を先に」「短く」「見た目よく」の3点を心がけることの重要性を学びました。

紙とインターネットの融合でより詳しい

最近紙面とインターネットとかけあわせた広報が登場しています。紙面のコードをスマートフォンなどの電子機器で読み取ってインターネットにつながることで、情報をより深く知ることができます。こうした情報技術の活

用は本町議会でも活用できる方法であります。

全国の優良広報紙から紙面づくりを学ぶ

昨年度の議会広報コンクールで優秀賞を受賞した岩手県金ケ崎町、宮城県利府町議会の議会広報の優れた点や編集体制について審査員に解説していただきました。

両議会とも本委員会で視察に訪れたことがあり、今回の研修を通して、限られた人員のなかでも努力を惜しまず、町民とのパイプ役としての使命を改めて感じさせられたところです。



編集後記

新人議員として2年が経過したところで副委員長を仰せつかりました。まだ若輩者ではありませんが、委員長を補佐し、より町民の皆様と親しまれる議会だよりの作成を目指したいと思います。議会だよりは、議会や町政側からの目線だけではなく、読んでいただく町民の皆さんの目線に立ち、興味を持って頂く議会だよりを作成することが大切だと思います。議会だよりが町民の皆さんの身近なものになるよう頑張りますので、ぜひ手に取って読んでいただき、率直な意見や感想をお寄せください。

編集委員

- 委員長 三留 満
- 副委員長 秦 貞継
- 委員 三留 正義

- 〃 〃 薄 幸一
- 〃 〃 青木 照夫

にしあいづり議会だより

No. 139

発行 福島県西会津町議会
 編集 議会広報特別委員会

〒969-4495 福島県耶麻郡西会津町野沢
 字下小屋上乙3261 電話 0241(45)4537
 e-mail gikai@town.nishiaizu.fukushima.jp